



会社名 武田薬品工業株式会社
代表者 代表取締役社長 長谷川閑史
(コード番号 4502 東証第1部)
問い合わせ先 コーポレート・コミュニケーション部
Tel 03-3278-2037

News Release

2013年5月9日

平成26年3月期の連結業績予想の修正について

当社は、本日、平成24年5月11日に公表した平成26年3月期の連結業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせします。

記

1. 平成26年3月期の連結業績予想の修正(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

	売上高	営業利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	億円	億円	億円	円
前回公表予想(A)	16,300	2,250	1,500	190
今回修正予想(B)	15,900	1,400	950	120.34
増減額(B-A)	△400	△850	△550	
増減率(%)	△2.5	△37.8	△36.7	
(ご参考)前期実績 (平成25年3月期)	15,573	1,225	1,312	166.25

2. 修正の理由

世界の医薬品市場は、先進国での財政再建を背景とする医療費抑制策の強化、日本市場での想定以上の後発医薬品の浸透などにより、ますます厳しさを増しています。当社を取り巻く市場環境が非常に厳しくなっていることに加え、腎性貧血治療剤「オモンティス」の米国での自主回収および慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療剤「ダクサス」の市場浸透の遅れなど、業績予想を公表した時点で想定しえなかった事業環境の変化が生じています。この様な環境下、当社は、将来の成長を確実なものにするために、研究開発投資を継続するとともに、成長著しい新興国事業にも積極的に投資を行ってまいります。そのため、当初見込んでいた業績予想に乖離が生じる可能性が高まったことから、今般、平成24年5月11日に公表した平成26年3月期の連結業績予想を修正することといたしました。

3. 業績予想の単年度開示への変更

当社を取り巻く外部環境および内部環境の変化がこれまで以上に激しく、3年先を正確に予想することが困難な状況になっています。そのため、3ヵ年度の中期計画の公表方法から、株主および投資家の皆さまにとって最も適切なガイダンス方法であると考えられる単年度の業績予想を開示することとし、新たに売上高および営業利益の2017年度までの年平均成長率をお示しすることといたしました。

4. 中期成長戦略期間における持続的成長目標

2015年度以降、ポテンシャルの高い自社パイプラインが収益に貢献する見通しであること、および、強靱かつ効率的なオペレーティングモデルへの変革に全社をあげて取り組むことで、2017年度に向けて高い成長を実現できるものと見込んでいます。

	経営指標		目標
成長性	売上高	2013-2017年度 年平均成長率	1桁台半ばの成長※
効率性	営業利益	2013-2017年度 年平均成長率	20%以上の成長※
株主還元	一株当たり配当金	2013-2015年度	年間180円を維持

※ ポテンシャルの高い自社パイプラインが2015年度以降に収益に貢献

5. 株主還元方針

株主還元策については、中長期的な視点に立ち、株主還元重視の姿勢のもと「安定的な配当」に努めます。なお、1株当たり配当金については2013年度から2015年度まで年間180円を継続する方針です。

「2013年度を起点とした中期成長戦略」等に関する詳しい内容については、当社ホームページに掲載される関連資料をご覧ください。

・本決算情報 <http://www.takeda.co.jp/investor-information/results/>

以上